

大芝高原森林づくり実施計画のパブリックコメントにおける意見等の概要及び村の考え方

1 募集期間

令和6年10月23日から11月29日まで

2 閲覧方法

役場（村民ホール及び観光森林課窓口）、村ウェブサイト

3 実施結果

（1）件数 5件

（2）提出方法 郵送1件 電子メール4件

（3）意見に対する対応

対応方針	件数
1 計画（案）を修正・追加する	3
2 計画（案）に同趣旨の内容が既に盛り込まれている	
3 計画（案）に反映しないが、今後の取り組みにおいて検討または参考とする	2
4 対応が困難なもの	
5 その他	

4 意見等の概要及び村の考え方

番号	意見要旨	村の考え方	対応方針
1	セラピーロード又は大芝の湯周辺でも良いので、山野草を楽しめる地域・山あじさい等の花木の楽しめる地域を作る。 現在でも、ささゆり他の山野草があるが、村民の協力により、自宅にある山野草を地域を決めて植えてもらい、管理してもらう事による村民参加と大芝の森をもっと多くの人に来てもらえる場所にする。(花等は人を呼べる) 現在つくばね、ささゆり、ゆうれい草等あるが、盗掘等の防止にもなる。 木を使った新しいスポーツ（フォレストアドベンチャー等）も取り入れる。	現存する植物保護等の観点から、山野草の持ち込み等は考えていません。計画（案）第4章にある村民参加型の施策や情報発信等を行い、多くの方に大芝高原の森林に親しんでもらえる取り組みを実施します。	3
番号	意見要旨	村の考え方	対応方針
2	温泉の露天風呂から農道にかけての森は、露天風呂と道路との間を遮蔽する役割を果たしており景観上とても重要な場所ですが、アカマツ林以外の樹木がほとんど存在していないことから、アカマツ伐	図 5-18 下部に「S2 は松枯れ等により計画策定時と状況が変化している可能性があるため、実際の施業実施にあたっては景観やコスト、植栽の方法などを十分考慮する」と追加します。	1

	採による景観への影響がとても大きいと思います。アカマツ伐採にあたっては慎重な検討・取り扱いが必要な部分だと思います。 しかし、実施計画の伐採計画（図5-18）と区画別の優先度（図5-14）を見てみると、温泉周辺（S2）から道路沿い（S2-2）までのアカマツ合計2.1haが、「作業の効率化」を理由として2027年に一気に伐採される計画となっています。伐採後に植栽が計画されていますが、通常サイズの苗であれば景観の回復に時間がかかり、造園に使うような大苗であれば非常に大きなコストがかかります。 整備優先度判定表（p 37）を見ると、温泉周辺は「社会的弱者利用」もあることから落枝等のリスクを考慮して急いで伐採する計画となっているようですが、実際には歩道沿いを除いて、人の入り込み・利用はほとんどないため、皆伐を急ぐ必要性は低い場所であると思われます。 計画どおりに一気に伐採するのではなく、伐採区域を帯状・群状に細分化して順番に伐採・更新していくのも1つの手段かと思います。実際の施業実施にあたっては、景観・コスト・優先度などを勘案して、再度ご検討いただければ幸いです。		
--	---	--	--

番号	意見要旨	村の考え方	対応方針
3	大芝高原森林づくり区域の内部区画（図5-13）のB2・B4エリアはあまり管理がされておらず、それゆえ多様な広葉樹が自生しており、自然度の高い状態となっています。役場玄関脇の資料コーナーにある、1999年の「大芝公園林調査報告書」では、この場所を「野鳥のサンクチュアリ」といった保護区的な扱いとする計画となっていました。 それが、今回の実施計画（案）では、木材生産を主目的とするヒノキの単純林「資源の森」へと大きく方針転換しています。ここに至る背景・経過として、どのようなニーズや議論があったのでしょうか。 実施計画 p 14に掲載されている村民アンケート「今後の森林の活用方法について」の結果では、「⑥木材生産をする森林（村の財源になるような林業活動を行う森林）」のニーズは5%しかなく、最下位のニーズとなっています。（※「⑦特にない」「⑧その他」を除く選択肢の中での比較。） 「林業・環境学習のフィールド」という記述についても、みんなの森の中には既に「学校林」があり、現に環境学習のフィールドとして活用されていま	「資源の森」については、令和2年に策定された大芝村有林整備基本計画に沿った目標林型としました。次期計画策定時に具体的な検討を行うため、「資源の森」については、次期計画策定時に具体的な議論を行い、計画に反映します。」と追加します。	1

	す。また、飛び地の村有林にある人工林を活用することで、平地林では学びにくい水源涵養や土砂流出防止といった森林の多面的機能を学ぶこともできるかと思います。 今回の実施計画の2030年までは、B2・B4エリアの伐採は計画されていないようなので、果たしてこの場所を本当に「資源の森」へ転換すべきなのか、次期計画までに再検討いただければ幸いです。 なお、「資源の森」のうち、B1・B3エリアについては、大泉川に近いことから、クマの緩衝帯として、スッキリとした景観のヒノキ単純林にする現行計画案に賛成します。		
番号	意見要旨	村の考え方	対応方針
4	図 5-18 「令和 12 年（2030 年）までの実施計画」として、「伐採」と「植栽」は図に記されていますが、それ以外の計画が記されていません。 先人たちも実施してきたように、森づくりは植栽だけで終わるわけではなく、下草刈りなどの計画的な「保育」作業が必要です。植栽後の保育がおざなりにならないよう、図5-18に「保育作業」の明記をお	図 5-18 中の多様性の森欄に「保育作業・前生稚樹の育成」を追加します。また、図 5-18 下部に「前生稚樹とは、アカマツ伐採前から林内に存在する小さく若い木」を追加します。	1

	願います。 また、多様性の森では、更新の方法として植栽だけでなく天然更新も活用していく旨が記されています（p 29）が、天然更新を成功させるためには、上層木の伐採に先立って計画的な「前生稚樹の育成」が重要です。図 5-18の中では「視界確保のための林内整理伐」としか記されておらず、将来の森づくりに必要な前生稚樹まで刈り払われてしまうおそれがあります。図5-18（p 42）に「前生稚樹の育成」の明記をお願いします。 森づくりは場当たりの対応ではうまくいきません。図 5-18 のように、いつ、どこで、どんな作業をしていくかという具体的な中期計画は、非常に重要なものであり、それが明記されている本実施計画案は評価できます。このように先を見通す計画が、アカマツの樹種転換だけでなく、ヒノキ間伐なども含めて定期的に見直され、実行されていくことを願っています。		
--	--	--	--

番号	意見要旨	村の考え方	対応方針
5	諏訪大社の修繕に寄贈したこともある質のよい赤松であれば、国立劇場の建設において国内材を寄贈できないか確認して参入してほしい。（都心の有名な建築物に使用されれば村の木材価値のPRになり、大芝の活性に繋がると思う。） 植樹の際には、ABMORIをやっている市川團十郎さんに是非来てもらいたい。（村のPRにもなるし、森という環境的側面だけでなく伝統芸能にも注目があって、上伊那地域の能や歌舞伎、人形芝居などの存続の力になり地域全体で観光PRがしやすくなると思う。）	アカマツ材の利活用について、広く情報収集を行い、販路の拡大を検討する中で、寺社仏閣や大規模事業への参入の可能性についても考慮します。 大芝高原の森林づくりでは、多くのエリアで天然更新主体による森づくりを実施することとなり、植樹する場合には適地適木により必要な範囲で実施し、可能な限り村民参加による作業を行います。また、様々な情報発信により大芝高原の森林をPRし、村民や地域の利用者に親しんでもらえる森を目指します。	3